

# まちづくりの3つの基本目標

## 1 地域資源を活かす しごと WORK

町が持つさまざまな魅力や資源を最大限に活かし、酪農や林業の基幹産業をはじめとし、IT産業や再生可能エネルギーなど新たに取り組んできた分野を含めた地域産業の高付加価値化とブランド化をより一層推進します。

また、山村の持つ力・魅力をより輝かせ、新規就農や起業家支援、6次産業化などにより若者の雇用創出を図るとともに、交流人口の拡大により、移住・定住を促進し、活力とにぎわいのあるまちを目指します。

## 2 いきいきと輝き続ける ひと HUMAN

次代を担う子どもたちが、さまざまな経験を通して将来への夢を思い描ける機会の創出に努めるとともに町の魅力や地域の良さを再認識し、次の世代へ継承していくための新しい時代に即した教育の充実に努めます。

また、少子高齢化が進む中で、子どもから高齢者まで全ての町民が豊かなころを持ち、共に支え合う思いやりのある地域社会の確立を進めます。

## 3 誰もが住みたくなる まち TOWN

町が持つ自然、空間、ゆとりを大切にしながら、町民が心安らぐ快適な生活を送ることができるよう、住環境を整えていくとともに、安全・安心を実感できる生活基盤の充実に努め、町民一人ひとりが主役となり住み続けたいと思えるまちづくりに努めます。

私は、昨年8月、多くの町民の皆さまからご信任を賜り、3期目の町政を担当させていただき、まちづくりの最重要課題を「人口減少問題」と位置づけ、新たな町総合計画と地方版総合戦略の策定に取り組んでまいりました。

平成28年度からスタートする町総合計画につきましては、まちづくりの指針となるものであります。私、本計画の施策体系に沿い、方針を述べさせていただきます。

新たな町総合計画では、これまで先人が築き上げてきた、全ての財産と先人のたくましい意志を受け継ぎ、町民一人一人がまちづくりの主役として自助・共助・公助の精神で「幸せを実感できるまち」を創造し、「夢」と「誇り」を持つ

「住み続けたい」と思えるまちづくりに取り組んでまいります。そのためには、「新たな発想」「資源の探求」「自立への挑戦」「協働から協創へ」の4つの姿勢を大事にし、「ひと」や「地域」「資源」を効果的に結びつけ、厳しい地域条件の中にありながらも、着実に一歩ずつ前進させながら、持続可能な地域社会の実現を目指すものであります。

# 施政方針

## 「葛巻らしい」「葛巻だからできる」取り組みで 人口減少問題に果敢に挑戦

平成28年度の町政の方向を決める町議会3月定例会議は3月4日から15日まで行われました。定例会議初日の4日、鈴木重男町長はまちづくりの重要施策について、力強く施政方針を述べました。その内容を紹介します。

平成27年度は、町村合併から60年の節目の年に、町民の皆さんと一体となった取り組みで、未来へ向け一歩前進することのできた一年でありました。

一方で、平成27年10月に行われた国勢調査の速報によると、当町の人口は6340人で前回調査の平成22年と比較し、964人、13.2%の減少となっており、人口減少率は県平均を10ポイント近く上回り、県内で4番目に高い人口減少率でありました。

町は、昭和36年以降、常に人口減少を解決するための取り組みに努めてきたところではありますが、今後、さらに厳しい状況が予想されることから、「葛巻らしい」「葛巻だからできる」取り組みで果敢に人口減少問題に挑んでまいりたいと考えております。

そのためには、これまで以上に町民と行政が一体となった取り組み、あるいは町民が町づくりに熱意と意欲を持って積極的に参画することが重要であると思います。

一人でも多くの方がこの町を訪れる、一人でも多くの方がこの町を好きになり、一人でも多くの方がこの町に住み続けられる、そういう町に葛巻をしていきたいと考えております。



# まちづくりの施策

まちの目指すべき将来像に掲げる「協創」は、人々が連携し、町が持つさまざまな資源を結びつけ、新しいものを創り上げる意味のほか、一体となって素晴らしい音色を奏でる「協奏」、良い意味での競い合いで発展する「競争」、力強いまちをつくる「強壮」の意味もあります。

「ひと」と「地域」が連携・協力し、さまざまな「きょうそう」のもとで、未来へ向けた「まちづくり」へ総力を挙げて取り組む必要があります。特に、国の地方創生の取り組みにより、今後、本格的に地域経済の活性化や人口減少問題の解決に向けた取り組みが進み、地域間における競争がより激化していくものと思われる。

そうした中で、長期的ビジョンをしっかりと持ちながら、短期的に具体的な成果を挙げていくことが求められるものであり、これまで以上に「選択と集中」による事業展開を進めていかなければなりません。

平成28年度からの4年間の前期計画では「ひと・まち・しごとを紡ぎ 一歩先行く山村くずまき」をキャッチフレーズに掲げ、特に将来的な人口減少、少子高齢化などを踏まえ、20代・30代の若者を町に定着させるため「教育・子育て環境の充実」「若者世代の確保対策」「6次産業化と起業家支援」に重点を置いた取り組みを進めることとしております。



町のホルスタイン共進会で出品牛をリードする未来の酪農家たち。「新葛巻型酪農構想」の推進など高収益産業の実現に努めます

## 施策1 基幹産業の新たな展開による高収益産業の実現

基幹産業である農林業において、効率的かつ合理的で収益性の高い安定した経営体の育成に取り組むとともに、意欲ある若手後継者や新規就業者、林業労働者の確保・育成に努めます。

また、「新葛巻型酪農構想」を推進し、これからの時代に対応した新農山村モデルとなる取り組みや、農地の集積と集約化、遊休農地の解消と生産コストの低減に取り組ま

6次産業化の取り組みや農工商連携の取り組みなどにより高付加価値化を図り、高品質な「くずまきブランド」の定着を図られるような取り組みを進めます。

体制の確立に向けた「新葛巻型畜産体制推進事業畜産クラスター運営費」

事業・江刈地区」「一般農道整備事業・江刈中部3期」

安全で安心な生産基盤とするための「粗飼料生産基盤除染対策事業」

担い手への農地利用集積を促進する「遊休農地解消対策事業」

森林資源の活用を図る「森林保全特別対策事業」

## 施策2 交流・連携の強化による地域産業の育成

移住・定住人口の拡大を図るためには、都市と農村との地域間交流やグリーン・ツーリズム、スポーツ・ツーリズムなどの多様な分野における交流の推進のほか、若年層の旅行需要喚起や葛巻ファンの獲得などが重要であり、観光・交流・連携の強化に努めます。

また、経営品質の向上による個店への誘客を図る魅力づくりや後継者の育成、技術の継承、創業支援など商工業の振興を図り、地元購買率の向上や地域経済の活性化を進めます。

型DMO形成促進事業」

首都圏などでの情報発信・PR活動を行うための「観光物産情報発信事業」

## 施策3 地域産業を活かした起業支援と雇用の確保

求職と求人が噛み合わない雇用のミスマッチなど、労働力の確保や雇用の場の確保が難しい状況にある中、町内事業所への雇用支援のほか、新規起業家への支援、企業誘致、

農商工連携による経営革新などを進め、地域経済の活性化に努めます。

資制度・利子補給事業」

め、新規雇用者を採用した町内企業に対し助成する「雇内促進事業」



定住促進奨励金の交付を受ける移住者ら。さらなる移住・定住人口の拡大に努めます



町の観光・交流拠点の充実のためのグリーンテージの改修工事を行います



毎年、多くの子どもたちが参加する町の植樹祭。林業の担い手の確保・育成と、森林資源の有効活用

## 施策4 子どもを安心して産み育てられる子育て支援

少子化、核家族化の進行に伴い、家庭や地域で支え合う子育て環境の充実が求められており、多様な保育ニーズに対応できる環境整備に努めます。

また、子育て相談や経済的負担軽減などの援助体制の充実を図ることで、子育てと仕事が両立できる環境づくりに努めるとともに、妊産婦が安

心して医療サービスを受けられるよう、専門医療機関での受診体制など総合的な支援に努めます。

さらに、時代の変化に対応した就学前教育の充実を図り、児童福祉施設と小中学校との連携強化を図ります。

【主な新規事業】  
▼子育て世帯に対し、一定期間入居後に無償譲渡する「子

育て支援住宅整備事業」

▼若者の定住を促進するため、民間アパートの家賃の一部をくずまき商品券で助成する

「若者定住家賃補助事業」

▼親になる前の若年層に子ども

の歯の大切さの意識を醸成するための「新婚応援歯科保健事業」

【主な継続・拡充事業】  
▼安心して子どもを産むこと

ができる環境づくりのため

「マタニティライフサポート事業」

▼対象を高校生まで拡大した

「乳幼児・児童生徒医療費助成」

▼任意接種に対する接種費用の一部を助成する「くずまキッズ予防接種助成」

【主な新規事業】  
▼安心して子どもを産むこと

## 施策5 学び輝く人づくりと葛巻を愛する人材育成

引き続き、連携型中高一貫教育の充実を図るほか、保育園、小学校を含めた教育連携のさらなる強化と、国際理解・情報キャリア教育の充実を図り、一貫した学力向上と学習指導の充実を図るほか、学校規模の適正化や教育施設環境の充実に取り組みます。

また、葛巻高校における山村留学の推進や大学進学に向けた学習レベルの向上、育英

制度の充実などを図り、誰もが教育を受けることができる機会の確保に努めます。

生涯学習関連では、生涯学習ネットワークを拡充し、学習支援の充実と情報提供に努めるとともに生涯学習施設の有効活用などを図るほか、地域文化に触れる機会を創出し、先人が築いた歴史と伝統文化の継承に努めます。

また、施設機能が向上した

体育施設の有効活用を図り、スポーツ・ツーリズムの推進に努めるほか、町民の健康増進と体力向上のため、スポーツを通じて「夢のあるまちづくり」に取り組み、トップアスリートのプレーに直接触れる機会を創出するなどし、生涯スポーツ、競技スポーツの推進を図ります。

【主な新規事業】  
▼小中学校の多様な学習環境

の実現のための「教育用ICT環境整備事業」

▼教職員が地域に根ざした教育に専念できる環境を確立するための「教員住宅整備事業」

▼留学生や町外からの入学者の受け入れ体制の充実に向けた「くずまき山村留学事業」および「葛巻高校生下宿費助成事業」

▼学校教育の授業力のブラッシュアップのための「学校教

育の充実を図るほか、保育園、小学校を含めた教育連携のさらなる強化と、国際理解・情報キャリア教育の充実を図り、一貫した学力向上と学習指導の充実を図るほか、学校規模の適正化や教育施設環境の充実に取り組みます。

また、葛巻高校における山村留学の推進や大学進学に向けた学習レベルの向上、育英

制度の充実などを図り、誰もが教育を受けることができる機会の確保に努めます。

生涯学習関連では、生涯学習ネットワークを拡充し、学習支援の充実と情報提供に努めるとともに生涯学習施設の有効活用などを図るほか、地域文化に触れる機会を創出し、先人が築いた歴史と伝統文化の継承に努めます。

また、施設機能が向上した

## 施策6 誰もが生きがいを持って暮らすことができる環境づくり

町民一人一人が健康に関心を持ち、健康づくりに取り組む環境を築くため、各種検診、保健サービス活動の一層の充実と受診率の向上に取り組む、町民の健康維持と医療費の抑制、適正化を図ります。

また、地域医療の充実と救急医療の確保を図るため、医師などをはじめとした医療・介護関係者の確保と育成に努めるほか、地域が連携した自殺予防を推進するため、ゲー

トキーパーなど人材の育成強化に取り組み、こころの健康相談体制の充実を図ります。

福祉関連では、住民の支え合いによる地域福祉社会の実現を目指し、高齢者や障がい者の生活支援、自立支援、自立助長などの相談・支援体制の充実に取り組みほか、高齢者が安心して暮らせる健康づくり・介護予防を推進するとともに地域包括ケアシステムの確立に努めます。

【主な新規事業】  
▼医療・看護専門職員などの人材確保を図るための「看護職員等養成修学資金貸付事業」

▼生活習慣病予防と健診受診率の向上に向けた「生活習慣病予防健診無料化事業」および「特定健診無料化事業」

▼高齢者のみ世帯の増加に伴うさまざまなニーズを把握し、生活支援体制の整備と今後求められるサービスの検討を行う

【主な継続・拡充事業】  
▼老朽化による施設整備を進めている「養護老人ホーム葛葉荘改築事業」

▼町外の医療機関で治療を受ける必要がある難病患者などに対する「障がい者等通院費助成事業」

う「生活支援サービス協議体の設置」

【主な継続・拡充事業】  
▼平成29年3月完成に向け工事を進める「葛巻病院改築事業」

【主な継続・拡充事業】  
▼老朽化による施設整備を進めている「養護老人ホーム葛葉荘改築事業」

▼町外の医療機関で治療を受ける必要がある難病患者などに対する「障がい者等通院費助成事業」

## 施策7 協創のまちづくりの推進

平成18年度から取り組んできた「協創のまちづくり」をさらに一歩前進させ、住民と行政が共に創り上げるまちづく

りを推進するとともに、住民参画機会を拡充し、参加意識や協創意識の醸成を図ります。

また、地域活動の推進や相互連携、新たな地域組織の設立などの取り組みを支援するとともに、地域づくりを担う

人材の育成に努めるほか、あらゆる分野において、男女が共に支え合う環境づくりに努め、女性が社会に参画できる



毎週火曜日、保健センターで開催している「子育てサロン」。さらなる子育て環境の充実に向け努めます。



3月16日に行われた平成28年度葛巻高校入学者の合格発表では、山村留學生2人を含む41人が合格。魅力ある高校づくりへ支援を拡充します。



平成29年夏の開院を目指し、工事が進められている新葛巻病院の建設現場（写真右は現葛巻病院、左は葛巻小学校）



新葛巻病院／完成イメージ

機会と男女共同参画意識の醸成に努めます。  
【主な新規事業】  
▼継続的な集落の維持・活性化

化と日常生活支援機能の充実と地域振興を図るための「過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業」

【主な継続・拡充事業】  
▼コミュニティ活動の推進と活性化のための「自治会活動交付金」および「協働のまち

づくり事業」

## 施策 8

### 快適に暮らせる生活環境の創出

移住者・定住者の受け入れを進めていくためには、住環境の充実が不可欠である一方で人口減少に伴い空き家の増加が問題となっていることから、空き家の有効活用や町営・町有住宅などの充実を図ります。

また、老朽化している水道施設の計画的な更新や生活排水処理施設の普及を図るほか、ごみの広域処理化やリサイクルによる減量化など、環境に

やさしい取り組みを進めます。

交通・通信関連では、安全で快適に利用できるよう幹線道路網および生活関連道路網の整備促進や維持管理体制の充実を図るほか、高齢化により生活バス路線の重要性が増していることからバス路線の維持確保に努めるとともに利用促進の取り組みを進めます。

また、情報通信基盤の適正管理に努めるほか、効率的・効果的な行政サービスの提供

手段として情報化による利活用の促進など、情報リテラシー向上に向けた取り組みなどを進めます。

【主な新規事業】  
▼町営住宅の長寿命化を図る「公営住宅等ストック総合改善事業」  
【主な継続・拡充事業】  
▼早期完成を目指す「江刈簡易水道整備事業」  
▼水洗化率の向上のための「水洗化普及支援事業」および

「水酸化普及支援事業」および「町整備型浄化槽整備推進事業」  
▼道路・橋りょうなどの維持管理に向けた「防災・安全社会資本整備総合交付金事業」  
▼町中心部のバイパス道路機能を有する「町道茶屋場田子線道路改良事業」  
▼住民の移動手段の確保のための「広域生活バス路線運行維持対策事業」および「バス路線運行拡大支援対策事業」

## 施策 9

### 自然と共生し地域の豊かな資源を活用するまちづくり

町の財産である豊かな自然環境を後世に引き継いでいくために、自然環境の保護・保

全に努めるとともに、環境教育に積極的に取り組み、町民みんなで守り育てる意識の高

揚に努めます。  
また、太陽光・風力のほか、畜ふん、生ごみ、未利用間伐

材などを利用したバイオマス資源による発電など、再生可能エネルギーの導入を推進し、

二酸化炭素排出量の削減に努めるとともに、安価なエネルギー供給ができるようエネルギーの地産地消に向けた取り

組みを推進します。  
【主な新規事業】  
▼災害時などでも電気自動車への充電が可能な「防災用太

陽光発電設備・急速充電器整備事業」  
【主な継続・拡充事業】  
▼循環型社会、低炭素社会の

実現に向けた「エコ・エネ総合対策事業費補助金」

## 施策 10

### こころ穏やかに安全安心に暮らせる地域社会づくり

複雑多様化する災害に対し、迅速かつ的確に対処し、効果的・効果的な活動ができるよう消防防災施設や安全装備品の充実強化を図るとともに、地域に即した消防団編成を踏まえた団員確保に努めます。

また、高齢化、国際化、車

社会による広域化、情報化などの進展により、特に高齢者や青少年が巻き込まれる交通事故や犯罪が増していることから、関係団体と協力し、指導および啓発活動に努めます。

【主な新規事業】  
▼消防資器材の充実と活動拠点の整備に向けた「救助資器材搭載型積載車更新事業」および「第6分団屯所整備事業」  
▼救急体制の充実のための「高規格救急自動車更新事業」

## 施策 11

### 広域行政の推進と行財政運営の合理化

人口減少や少子高齢化などにより、町を取り巻く社会情勢が変化する中、住民からの行政ニーズも多様化しており、時代に即した行政サービスを提供していくために、安定的な財政運営を維持し、効率的

かつ持続可能な行政運営を進めます。  
また、盛岡広域中核都市圏構想の推進や広域市町との連携強化を図り、さらなる行政サービスの向上と事務の効率化に努めます。

【主な新規事業】  
▼公共施設の効率的な配置、活用、維持管理を実現するための「公共施設等総合管理計画策定事業」  
▼町の決算に係る統一の基準による財務諸表作成のための

「地方公会計財務書類作成支援業務」  
▼新たにインターネットによる受付やクレジット決済を導入する「ふるさと納税事業」



日頃の訓練の成果を競う町の消防操法競技会。消防防災施設や安全装備品の充実強化を図るとともに消防団員の確保に努めます



老朽化が著しい救急自動車を更新し、救急体制の充実を図ります（写真は現在の救急自動車）



災害時などでも電気自動車への充電が可能な「防災用太陽光発電急速充電器」の整備を進めます（写真は役場前の充電設備）



早期完成を目指し、改良工事が進められている町道茶屋場田子線（写真は田の沢地区）